

情報ワーキンググループの今後の検討事項について

I 小・中・高等学校を通じた情報活用能力の育成について

- ① 小・中・高等学校の各教科等を通じて育まれる情報活用能力について、「三つの柱」に沿ってどのように整理するべきか
- ② 特に、プログラミングや情報セキュリティをはじめとする情報モラルなどに関する学習活動について、学校外の多様な教育活動とも連携しつつ、発達段階に応じてどのように充実を図るべきか
- ③ 関連して、各教科等におけるICTを活用した学習・指導について、「アクティブ・ラーニング」の視点に立った学びを推進する視点も踏まえ、どのように充実を図るべきか

II 高等学校情報科（各学科に共通する教科）の改善について

- ① 情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を身に付けさせるため、情報科（各学科に共通する教科）の科目の構成、目標、内容及び学習・指導方法等について、どのように改善を図るべきか

III 学習指導要領の理念を実現するために必要な方策について

- ① 情報教育やICTを活用した学習・指導を充実するため、「カリキュラム・マネジメント」をどのように確立するべきか
- ② 情報教育やICTを活用した学習・指導を充実するため、教員の指導力の向上（養成・採用を含む。）やICT環境の整備等をどのように進めるべきか

※ 第2回以降においては、おおむねI、IIの順に検討し、IIIについては必要に応じて適時検討することとする

高等学校情報科（各学科に共通する教科）の改善について

- 検討事項 1 小・中・高等学校を通じて育む「情報に関する資質・能力」を踏まえ、高等学校情報科（各教科に共通する教科）において育む資質・能力は、「三つの柱」に沿ってどのように整理されるか。
- 検討事項 2 高等学校情報科において情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を身に付けさせる上で、特にプログラミングや情報セキュリティに関する学習をどのように充実するべきか。
- 検討事項 3 「論点整理」、高等学校情報科において育む資質・能力（検討事項 1）及び情報科におけるプログラミングや情報セキュリティに関する学習の充実（検討事項 2）を踏まえ、情報科の各科目の目標・内容についてどのように改善を図るべきか。
- 検討事項 4 高等学校情報科の指導において、障害のある生徒に対してどのような配慮が必要と考えられるか。

小・中・高等学校までに全ての生徒に育むべき情報に関する資質・能力

高等学校卒業までに育むべき情報に関する資質・能力

- ・(思考や創造等に活用される基礎的な情報としての)教科等の学習を通じて身に付ける知識等
- ・情報を活用して問題を発見・解決したり考え方を形成したりする過程や方法についての理解
- ・問題の発見・解決等の過程において活用される情報手段(コンピュータなどの)特性についての理解とその操作に関する技能
- ・アナログ情報とデジタル情報の違い(Webサイトと新聞や書籍等により得られる情報の早さや確かさの違い)など、情報の特性の理解
- ・コンピュータの構成や情報セキュリティなど、情報手段の仕組みの理解
- ・社会の情報化と情報が社会生活の中で果たしている役割や及ぼしている影響の理解
- ・情報に関する法・制度やマナーの意義についての理解

個別の知識・技能
(何を知っているか、何ができるか)

- ・情報を活用して問題を発見・解決し新たな価値を創造したり、自らの考え方の形成や人間関係の形成等を行ったりする能力
- ・目的に応じて必要な情報を収集・選択したり、複数の情報を基に判断したりする能力
- ・情報を活用して問題を発見し、解法を比較・選択し、他者とも協働したりしながら解決のための計画を立て実行し、結果に基づき新たな問題を発見する等の能力
- ・相手の状況に応じて情報を的確に発信したり、発信者の意図を理解したり、考え方を伝え合い発展させたりする能力
- ・問題の発見・解決や考え方の形成等の過程において情報手段を活用する能力

思考力・判断力・表現力等
(知っていること・できること・どう使うか)

- ・情報を多角的に吟味しその価値を見極めていくこと
- ・する情意や態度等
- ・自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする情意や態度等
- ・情報モラルや方法に対する責任について考え方行動しようとす
- ・る情意や態度等
- ・情報や情報技術を積極的かつ適切に活用して情報社会(情報の果たす役割が一層重要な社会)に主体的に構築していくこと
- ・する情意や態度等

学びに向かう力・人間性等
(どのように社会・世界と関わるよい人生を送るか)

【情報科】

- ◎情報や情報技術を問題の発見と解決に活用するための科学的な考え方等を育てる
- ①情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決するための方針と情報社会についての理解と、情報技術を適切に活用するための技能を養う
- ②問題の発見・解決に向けた情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う
- ③情報を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度を養う



高等学校基礎学力
テスト(仮称)

(技術・家庭科「情報に関する技術」)

- ◎情報社会への主体的な参画に向けて、問題を発見・解決したり自らの考えを形成したりする過程や、情報手段等についての知識と経験を、科学的な知として体系化していくようになるなど、発達段階に応じた資質・能力を高等学校教育の本質的な学びを深める中で身に付ける
- 【高等学校】(各教科等)
- ◎情報社会への主体的な参画に向けて、問題を発見・解決したり自らの考えを形成したりする過程や、情報手段等についての知識と経験を、科学的な知として体系化していくようになるなど、発達段階に応じた資質・能力を高等学校教育の本質的な学びを深める中で身に付ける

【中学校】(各教科等)

- ◎情報を効果的に活用して問題を発見・解決したり、自らの考えを形成したりする経験や、その過程で情報手段を活用する経験を重ねつつ、抽象的な分析等も行えるようになるなど、発達段階に応じた資質・能力を中学校教育の本質的な学びを深める中で身に付ける
- 【中学校】(各教科等)
- ◎情報を効果的に活用して問題を発見・解決したり、自らの考えを形成したりする経験や、その過程で情報手段を活用する経験を重ねつつ、抽象的な分析等も行えるようになるなど、発達段階に応じた資質・能力を中学校教育の本質的な学びを深める中で身に付ける

【小学校】(各教科等)

- ◎様々な問題の発見・解決の学習を経験しながら、そこに情報や情報手段が活用されていることや、身近な生活と社会の情報化との関係等を学び、情報や情報手段によざや課題があることに気付くとともに、情報手段の基本的な操作ができるようになるなど、発達段階に応じた資質・能力を小学校教育の本質的な学びを深める中で身に付ける
- 【幼稚園】

幼稚園において培われる基礎(言葉による伝え合い、豊かな感性と表現等)

高等学校情報科において育む資質・能力

個別の知識・技能 (何を知っているか、何ができるか)

思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)

学びに向かう力、人間性等 (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)

- ・情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能
- ・情報と情報技術を活用して問題を発見・解決するための方法についての理解
- ・情報社会の進展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ・情報に関する法・制度やマナーの理解と情報社会において個人が果たす役割や責任についての理解

- ・情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能
- ・情報と情報技術を活用して問題を発見・解決するための方法についての理解
- ・情報社会の進展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ・情報に関する法・制度やマナーの理解と情報社会において個人が果たす役割や責任についての理解
- ・情報と情報技術を多面的に吟味しその価値を見極めていくこととする態度
- ・自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする態度
- ・情報モラルや情報に対する責任について考え行動しようとする態度
- ・情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度

(参考)高等学校卒業までに全ての生徒に育むべき情報に関する資質・能力

個別の知識・技能 (何を知っているか、何ができるか)

- ・(思考や創造等に活用される基礎的な情報としての)教科等の学習を通じて身に付ける知識等
- ・情報を活用して問題を発見・解決したり考え方を形成したりする過程や方法についての理解
- ・問題の発見・解決等の過程において活用される情報手段(コンピュータなど)の特性についての理解とその操作に関する技能
- ・アノログ情報とデジタル情報の違い(Webサイトと新聞や書籍等により得られる情報の早さや確かさの違い)
- ・情報の特性的理解
- ・コンピュータの構成や情報セキュリティなど、情報手段の仕組みの理解
- ・社会の情報化と情報が社会生活の中で果たしている役割や及ぼしている影響の理解
- ・情報に関する法・制度やマナーの意義についての理解

思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)

- ・情報を多面的に吟味しその価値を見極めていくこととする態度
- ・自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする態度
- ・情報モラルや情報に対する責任について考え行動しようとする態度
- ・情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度
- ・情報と情報技術を多面的に吟味しその価値を見極めていくこととする態度
- ・自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする態度
- ・情報モラルや情報に対する責任について考え行動しようとする態度
- ・情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度
- ・情報と情報技術を多面的に吟味しその価値を見極めていくこととする態度
- ・自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする態度
- ・情報モラルや情報に対する責任について考え行動しようとする態度
- ・情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度

(参考) 情報教育の目標の「3観点」と資質・能力の「三つの柱」との関係のイメージ

「情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議」第1次報告
(平成9年10月)において整理された、情報教育の目標の「3観点」と、資質・能力の「三つの柱」との関係の考え方

情報教育の目標の「3観点」

情報活用の実践力

課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主として収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力

情報的なる理解

情報活用の基礎となる情報手段の特性と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解

情報社会に参画する態度

社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

具体的な指導項目を整理するための8区分(要素)

資質・能力の「三つの柱」

個別の知識・技能
何を知っているか、何ができるか

思考力・判断力
・表現力等
知っていること・できることをどう使うか

学びに向かう力、
人間性等
どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

内容・学習活動の視点からの整理

情報活用能力

資質・能力の視点からの整理

高等学校情報科における「見方・考え方」

社会、産業、生活、自然等の種々の事象を情報とその結びつきとして把握し、見通しをもつた試行錯誤と評価・改善とを重ねながら、問題の発見・解決に向けた情報技術（プログラミング、モデル化とシミュレーション、情報デザイン等）の適切かつ効果的な活用を探究する。

- 【世界をどのように捉えるか】
- 事象を抽象化して、情報とその結びつきとして把握



【どのような枠組みで思考するか】

見通しをもつた試行錯誤と評価・改善とを重ねながら、問題の発見・解決に向けた情報技術（プログラミング、モデル化とシミュレーション、情報デザイン等）の適切かつ効果的な選択・活用を探究「効果的な活用」…解決が可能となるように問題を細分化することや、処理を最適化することなどを含め、コンピュータ等の特性をできる限り生かして問題の発見・解決ができるようにして

情報科の特徴

コンピュータや情報社会についてだけでなく、問題の発見・解決の過程や手法そのものの（とりわけ情報技術の活用によるもの）を学ぶ教科

- 【思考の基礎】
- 情報の特性、情報技術の特性、問題技術の特性、手法等に関する科学的な理解
- 情報モラルへの配慮や自らの情報活用を振り返り、評価・改善しようとする態度 等

情報科におけるアクティブ・ラーニングのイメージ(たたき合案)

【基本的な考え方】

- 特定の型や、方式化された授業の方法や技術ではなく、授業改善の考え方として捉える。
- 子供の学びへの積極的関与と深い理解を促すような指導や学習環境を設定することにより、子供たちの自信を育み、必要な資質・能力を身に付けていくことができる。
- 具体的な学習プロセスは限りなく存在しうるものであり、教員一人一人が、子供たちの発達の段階や発達の特性、子供の学習スタイルの多様性や教育的ニーズなど学習内容、単元の構成や学習の場面等に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫して実践できるようにすることが重要。

- ・知識の概念化・構造化
 - ・問題の発見・解決に情報技術を活用する能力の向上
 - ・情報社会に参画する態度の育成
- 生涯にわたって情報技術を活用し現実の問題を発見し解決していくことができる力

【深い学び】習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた学びの過程の実現

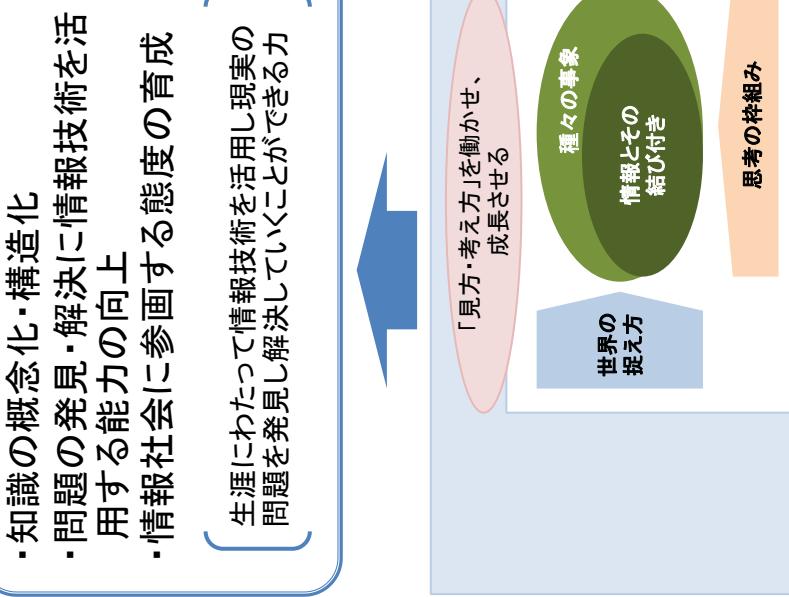
- 具体的な問題の発見・解決に取り組むことを通して、日常生活の中で問題の発見・解決を行っていることを見出し、その過程や手法を意識し考えるとともに、情報技術の適切かつ効果的な活用を探求する。
- ICTの積極的な活用を通して、情報社会との適切かつ豊かな関わり方について考える。
- ICTを活用し、試行錯誤して目的を達成することにより、コンピュータをはじめとする情報や情報技術についての本質的な理解に迫る。

【対話的な学び】他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げる学びの過程の実現

- 問題を発見し明確化する過程でデータを根拠とした話し合いを行うことによって、より合理的な視点から吟味する。
- ICTを積極的に活用して、役割を分担し協働してプログラムの作成等に取り組んだり、各自が作成したプログラム等を互いに評価し合ったりするにより、処理の最適化など情報技術のより効果的な活用を志向し探究する。
- 産業の現場で情報システムを開発している人々やそれらを活用している人々と関わることなどにより、現実の問題解決に情報技術の活用が有効であることを実感し、自己の問題解決に取り組む。

【主体的な学び】見通しをもつて粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる学びの過程の実現

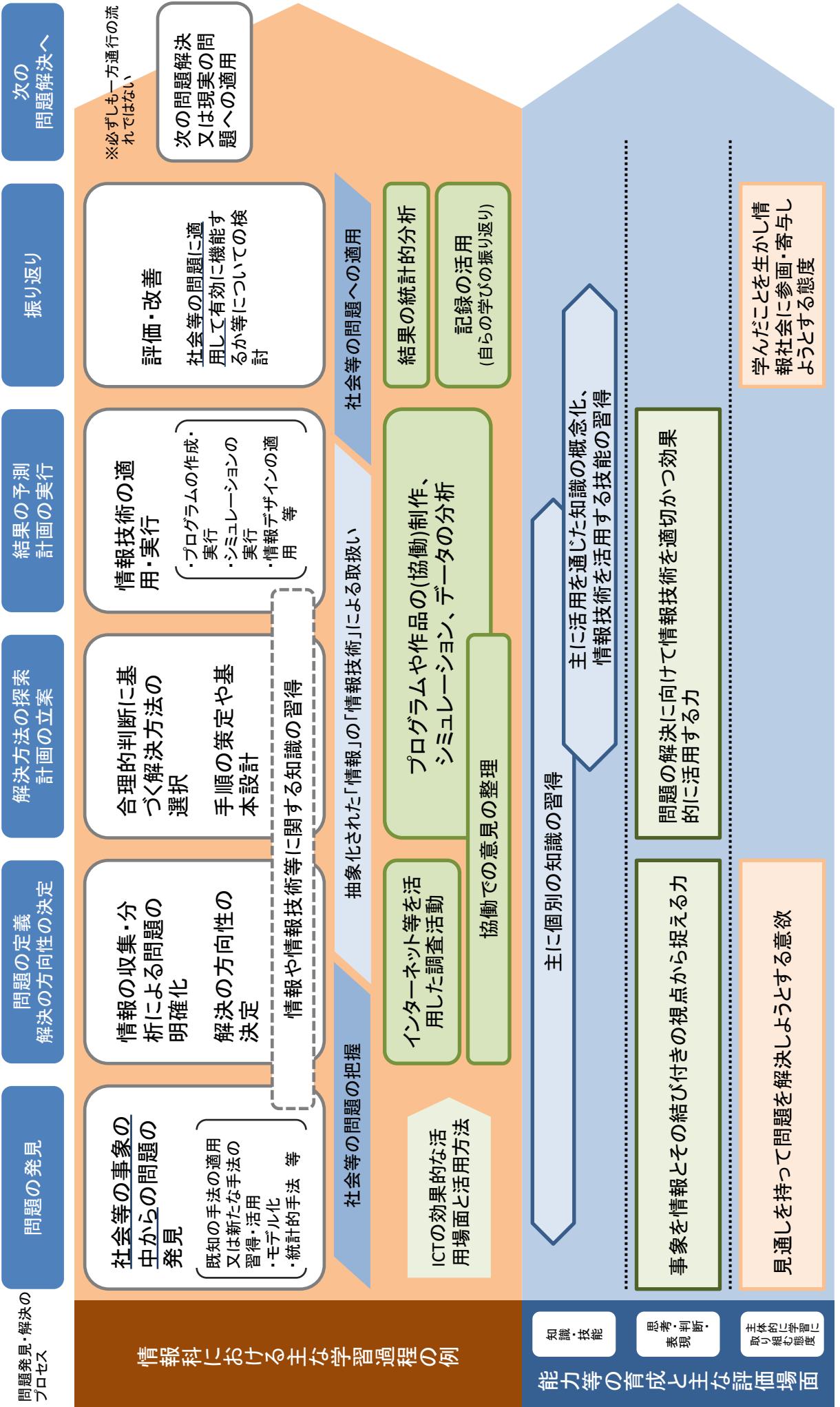
- 情報技術を活用して身近な問題を発見・解決することにより、達成感を味わうとともに、その有用性を見いたし、積極的に活用する。
- 見通しをもつて試行錯誤することを通して、自らの情報活用を振り返り、評価・改善して、次の問題解決に取り組む。
- ICTを積極的に活用することにより、学習意欲を高めるとともに、個々の興味・関心や能力・適性に応じてより込んだ課題に取り組むようになる。



【情報科におけるアクティブ・ラーニング】
問題の発見・解決に情報技術を活用するとともに、自らの情報活用を評価・改善

基本的な知識・技能の習得
・情報、情報技術や問題解決の手法等についての知識・理解
・情報社会についての知識・理解
・情報や情報技術を活用する技能 等

情報科における学習プロセスの例(たたき台案)



体育・保健体育、健康、安全WGにおける検討事項（案）

1. 体育・保健体育を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・体育・保健体育を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
 - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
 - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた体育・保健体育において育成すべき資質・能力の系統性について
 - ・体育・保健体育において育成すべき資質・能力と指導内容との関係について
 - ・オリンピック・パラリンピック大会を契機として育成すべき資質・能力

2. アクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき体育・保健体育の指導等の改善充実の在り方について

3. 資質・能力の育成のために重視すべき体育・保健体育の評価の在り方について

4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

5. 健康・安全における資質・能力等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（教育課程企画特別部会「論点整理」18ページ参照）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できるかどうか
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できるかどうか
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

健やかなか体の育成に関する教育のイマージ（たたき台）

体育科・保健体育科

平成27年12月10日
会議部会
WG
資料2
体育・保健体育、健康、安全

発達の段階

【高等学校】

- 生涯にわたる豊かなスポーツライフを継続する資質・能力を養うとともに、健全な社会づくりに参画する態度を育てる。
- 「する、みる、支える」などの多様なスポーツとの関わり方にに関する指導を充実する。
- 体育で学習したことを実生活や実社会で生かし、運動の習慣化につなげる指導を充実する。
- 中学校からの接続を踏まえ、体力や技能の違いを超えてスポーツを楽しめよう、男女共習やアダプテッド・スポーツの体験の機会を充実する。

- 主体的に運動に取り組めるよう、協同的な学びや課題解決的な学びをさらに充実する。

- 健康課題や情報を批判的に捉え、課題解決を目指して論理的に考え、意志決定・行動選択する力を育てる。
- 自他の健康の保持増進や回復のための健康づくりを目指して、健康的な環境づくりに参画する活動の充実。

【中学校】

- 生涯にわたって運動に親しむ資質・能力を養うとともに、健康の保持増進のための実践力を育成する。
- 小学校からの接続を踏まえ、競争や達成、課題解決、創造、協力などのスポーツを通した多様な楽しさを味わえるよう、全ての領域の体験のさせ方を充実する。
- 体力や技能の違いを超えてスポーツを楽しめよう、男女共習やアダプテッド・スポーツの体験の機会を充実する。
- 3年次では、自主的に運動に取り組めるよう、協同的な学びや課題解決的な学びをより充実する。
- 健康課題を把握し、適切な情報を選択、活用し、課題解決のために自己判断や意志決定する力を育てる。
- 自他の健康の保持増進や回復のためにコミュニケーションを図ったり、主張したりする活動の充実。

【小学校】

- 基礎的な身体能力や知識を身に付け、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。
- 運動の楽しさや喜びを味わい、児童の運動への関心や意欲を高めるとともに、仲間と仲よく運動したり、運動の課題を主導的に解決したりする力を養うなど、生涯にわたる資質や能力の基礎を育てる。
- 身近な健康課題に関心を持ち、健康を保持増進するための情報を活用し、課題解決するとともに、自己の健康に関する取組を肯定的に捉える態度を育てる。

【幼児教育】

- (教育課程部会幼児教育部会において、本部会での議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育つてほしい姿の明確化について審議)
- 体を動かす様々な活動に目標を持つて立ち向かったり、困難につまずいても気持ちを切り替えて自分なりに乗り越えようとして、根気強くやり抜くことで活動意欲を満足させ、自ら体を動かす。
- 適切な活動を選び、体を動かす意欲を持ち、いろいろな場面に応じて体の諸部位を十分に動かし進んで運動する。
- 健康な生活に親わる人々に接したり、社会の情報を取り入れたりなどして、自分の健康に対する関心を高め、体を大切にする活動を進んで行う気持ちを持ち、健やかな生活リズムを身に付ける。



指定校事業での検証、全国体力・運動能力、運動習慣等調査

【たたき台】資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通じて 育成すべき資質・能力の整理イメージ（体育科・保健体育科）Ver. 5

平成28年3月8日
体育・保健体育、健康、安全WG
資料4

小学校 体育	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 (情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか))
運動領域	各種の運動が有する特性や魅力に応じた 技能や知識 ・各種の運動を行うための技能 ・各種の運動の行い方にについての基本的 な知識	自己の能力に適した課題をもち、活動を選 んだり工夫したりする思考力・判断力・表 現力等 ・自己の能力に適した課題に気付く力 ・自己の課題を解決するために活動を選ん だり、運動の行い方を工夫したりする力 ・思考し判断したことを、言葉や動作等で 他者に伝える力	運動の楽しさや喜びを味わい、明るく 楽しい生活を営むための態度 ・進んで学習活動に取り組む ・約束を守り、公正に行動する ・友達と協力して活動する ・自分の役割を果たそうとする ・安全に気を配る
保健領域	身近な生活における健康・安全について の基礎的な知識や技能 ・健康な生活、発育・発達、心の健康、 けがの防止、病気の予防に関する基礎 的な知識 ・不安や悩みの対処やけがの手当に関す る基礎的な技能	身近な健康課題に気付き、健康を保持増進 するためには情報を活用し、課題解決する力 ・身近な健康課題に気付く力 ・健康課題に関する情報を集める力 ・健康課題の解決方法を予想し考える力 ・学んだことを自己の生活に生かす力 ・学んだことや健康に関する自分の考え方 伝える力	健康の大切さを認識し、健康で楽しく 明るい生活を営む態度 ・自己の健康に関心をもつ ・自己の健康の保持増進のために協力 して活動する ・他の心身の発育・発達などを肯定 的に捉える

【たたき台】資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通じて育成すべき資質・能力の整理イメージ（体育科・保健体育科）Ver. 5

中学校 保健体育	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 (情意、態度等に関するもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか))
運動の特性に応じた行い方や運動 の一般原則などの知識 ・技術の名称や行い方の知識 ・運動の特性や成り立ちの知識 ・体力の要素や高め方の知識 ・運動観察の方法の知識 ・伝統的な考え方の知識 ・スポーツに関する科学的の知識や文化 的意義等の概要	自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫で する思考力・判断力・表現力 ・自己の課題に応じた運動の行い方の改善すべきポイントを見付ける力 ・運動実践の場面で、自己の課題に応じて、適切な練習方法を選ぶ力 ・運動実践の場面で、健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な活動を選ぶ力 ・状況に応じた自己や仲間の役割を見付ける力 ・作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための適切なかかわり方を見付ける力 ・運動を継続して楽しむための自己に適したかかわり方を見付ける力 ・思考・判断したことを、根拠を示しながら相手に伝える力	生涯にわたって運動やスポーツに親しむとともに、明るく豊かな生活を営む態度 ・自主的に学習活動に取り組む ・運動における競争や協同の場面を通して、多様性を認識し、公正に取り組む ・互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲を持つ ・相手を尊重し伝統的な行動の仕方を大切にしようとする ・運動実践の場面で、健康・安全を確保する	生涯にわたって運動やスポーツに親しむとともに、明るく豊かな生活を営む態度 ・自主的に学習活動に取り組む ・運動における競争や協同の場面を通して、多様性を認識し、公正に取り組む ・互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲を持つ ・相手を尊重し伝統的な行動の仕方を大切にしようとする ・運動実践の場面で、健康・安全を確保する
小学校段階の学習を踏まえ、各種の運動が有する特性や魅力に応じた技能 ・知識を踏まえて、基本的な運動の技能として発揮したり、身体表現したりする	個人生活における健康・安全についての科学的な知識や技能 ・現代的な健康課題を踏まえた心身の機能の発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防に関する知識 ・ストレス対処、応急手当に関する基礎的な技能	健康課題を把握し、適切な情報を選択、活用し、課題解決のために適切な意思決定をする力 ・自他の健康課題を発見する力 ・健康情報を収集し、批判的に吟味する力 ・健康情報や知識を活用して多様な解決方法を考える力 ・多様な解決方法の中から、適切な方法を選択・決定し、自他の生活に生かす力 ・自他の健康の考え方や解決策を対象に応じて表現する力	健康の保持増進のための実践力を育成し、明るく豊かな生活を営む態度 ・自他の健康に関する取組のよさを認める ・自他の健康の保持増進や回復のために協力して活動する ・自他の健康の保持増進に主体的に取り組む

【たたき台】資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通じて育成すべき資質・能力の整理イメージ（体育科・保健体育科）Ver. 5

個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)		思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 (情意、態度等に関わるもの どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)
高等学校 保健体育	運動の特性に応じた行いの方や運動の一般原則などの知識 ・技術の名称や行いの方の知識 ・体力の高め方の知識 ・課題解決の方法の知識 ・伝統的な考え方の知識 ・競技会、発表会の仕方や審判の方 法等の知識 スポーツに関する科学的知識や文化的意義等	自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取組み方を工夫できる思考力・判断力・表現力 ・自己や仲間の挑戦する運動課題を設定する力 ・技術的な課題や有効な練習方法について指摘する力 ・運動実践の場面で、課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の課題を見直す力 ・運動実践の場面で、自己や仲間の危険を予測し回避するための活動の仕方を選ぶ力 ・状況に応じた自己や仲間の役割を設定する力 ・作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付ける力 ・運動やスポーツを生涯にわたって楽しむための自己に適したかかわり方を見付ける力 ・自己に適したことを、根拠を示し示したり、思考・判断したことを、根拠を示したり、他者に配慮したりして相手に伝える力など	生涯にわたつて豊かなスポーツライフを継続するとともに、明るく豊かで活動ある生活を営む態度 ・運動の楽しさや喜びを深く味わい、主観的に取り組む態度 ・運動の合理的、計画的な実践を通して、多様性を尊重し、公正に取り組む、仲間と主体的にいかかわり協力する、役割に責任をもつて取り組む、意思決定などに参画するなどの意欲を持つ ・相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする ・運動実践の場面で、健康・安全を確保する など
科目体育	各種の運動が有する特性や魅力に応じた技能 ・知識を踏まえて、運動の技能として発揮したり、身体表現したりする	健健康課題の解決を目指して、情報を批判的に捉えたり、論理的に考えたりして、適切に意思決定・行動選択する力 ・社会生活に関わる健康課題を発見する力 ・社会生活に関わる健康情報を収集、分析する力 ・社会背景や置かれている状況に応じて解決方法を考える力	健健康の保持増進のための実践力を育成し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度 ・社会生活に関わる健康づくりに关心をもつ ・社会生活において健康・安全を優先する ・健康の保持増進や回復のための社会づくりに参画する
科目保健	個人及び社会生活における健康・安全についての総合的な知識や技能 ・現代社会に生じた健康課題の解消に役立つ知識、健康な生活と疾病の予防に関する知識 ・ライフステージにおける健康を踏まえた生涯を通じる健康の知識 ・社会生活と健康に関する知識 ・社会資源の活用、応急手当に関する技能	解決方法を活用し、健康な社会づくりを目指して適切に意思決定・行動選択する力 ・健康な社会づくりに必要な知識や技能、健康の考え方や解決策を社会へ伝える力	

体育科・保健体育科における課題発見・解決の学びのプロセスのイメージ（体育）案

見方・考え方：運動の特性や体力の要素を捉え、運動・スポーツの楽しさや喜びを見出すとともに、公正、協力、責任、参画、健康・安全といった視点を踏まながら、運動・スポーツとの豊かな関わり方にについて考察すること

個々や集団の学びのプロセス例

易しい運動から取り組む

自己の思いや願い、体や頼り、体力や技能に応じて、目標をもつ

自己の能力やチームの特徴に応じて運動課題を選択し、課題解決のための活動を決める

決めた運動に取り組む

成果を確認し、振り返る

実生活や社会で生がす

知識・技能

多様な授業の展開

運動の行い方を理解し、今できる力で取り組む

知識を活用し、選択した方法等で運動に取り組む

運動やスポーツの楽しさや喜びを味わうことができる知識・技能

学習の広がりや深まり主体的・協動的な学び

思考力・判断力・表現力

自己の能力やチームの特徴に応じた運動の楽しさや喜びを認め合う

課題の達成度やその理由等について考える

自己の能力やチームの特徴に応じて運動課題を見付ける

課題の解決のための活動を選ぶ

自己やチームの課題解決のための活動を選ぶ

自己の能力やチームの特徴に応じた運動の楽しみ方に気付く

仲間とともに、課題の解決をする

課題の解決に向けた意見や動作等で互いに伝え合う

自己に合った運動やスポーツとのかかわり方を見付ける

実生活で実践できる思考力・判断力・表現力

仲間のよさや課題を互いに伝え合う

きるか
など

向かう力

- ・積極的・自主的・主体的に運動に取り組む
- ・勝敗などを素直に受け止める
- ・ルールやマナーを大切にする
- ・互いのよさを認め合う
- ・仲間と協力して取り組む
- ・多様性に気付く(認識する、尊重する)
- ・自己の責任を果たす
- ・話合いに参加する
- ・運動を行って運動を安全にする
- ・自己や仲間の健康・安全を確保する

運動やスポーツの継続につながる態度

指導上配慮が必要な内容や個々の学びに対する個別指導

※課題発見・解決の学びのプロセスは例示であり、これに限定されるものではない。また、必ずしも順序性を示したものではなく、一方向の流れではない。

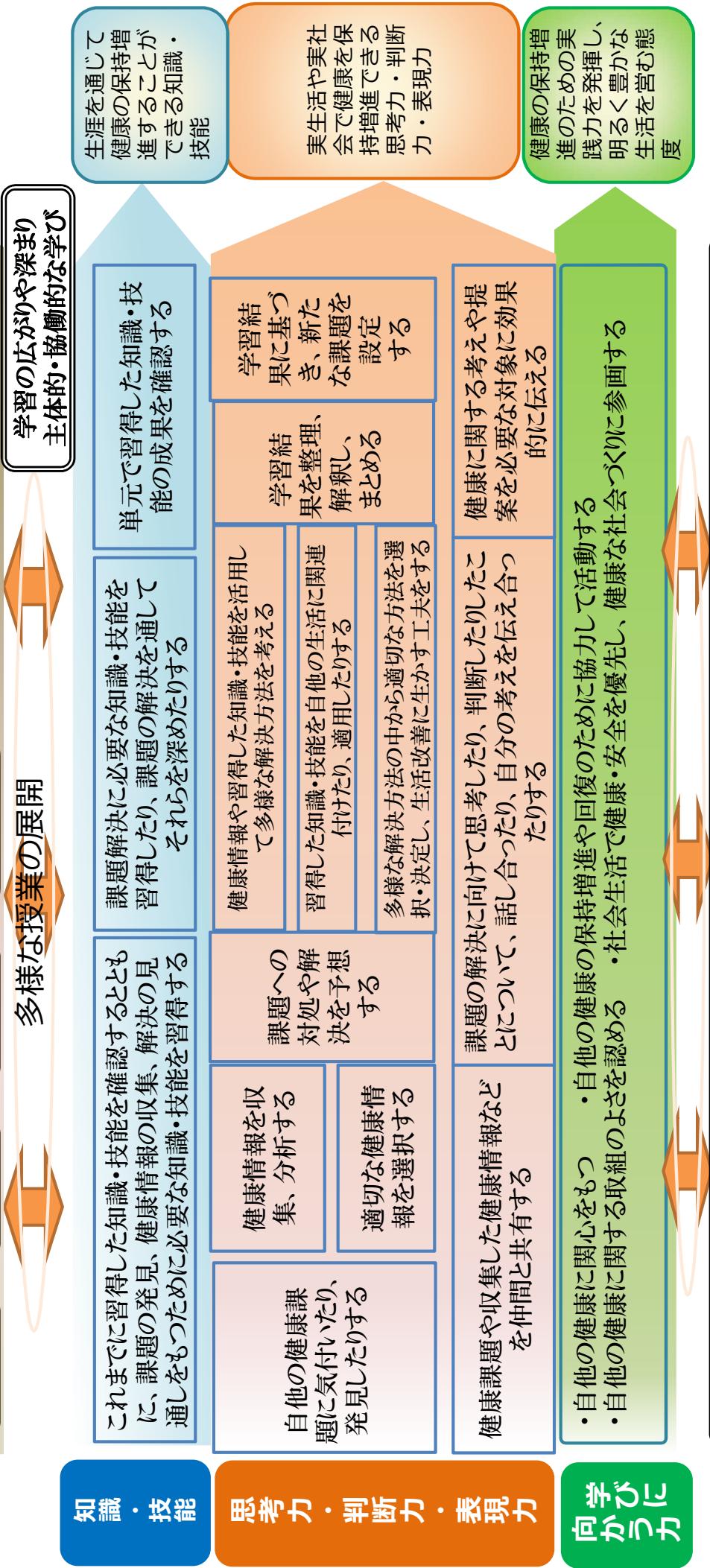
体育科・保健体育科における課題発見・解決の学びプロセス（保健）案

健康的な見方・考え方：健康や安全の視点から情報を捉え、健康の保持増進と回復を目指して疾病等のリスクを減らしたり、自分に合った対処法を見付けたり、生活の質を高めたりするために考案すること

個や集団の学びのプロセス例



多様な授業の展開



指導上配慮が必要な内容や個々の学びプロセスに対応した個別指導

※課題発見・解決の学びのプロセスは例示であり、必ずしも一方方向の流れではない。また、授業では学びのプロセスの一部を扱うこともある。

体育科・保健体育科におけるアクティブ・ラーニングのイメージについて（体育）

基本的な考え方

- 特定の型や、方式化された授業の方法や技術ではなく、授業改善の考え方として捉える。
- 子供の学びへの積極的関与と深い理解を促すようになります。
- 必要な資質・能力を身に付けていくことができます。
- 具体的な学習プロセスは限りなく存在するものであり、教員一人一人が、子供たちの発達の段階や発達の特性、子供の学習スタイルの多様性や教育的ニーズと学習内容、単元の構成や学習の場面等に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫して実践できるようになります。

習得・活用・探究といふ学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた学びの過程の実現

- 運動やスポーツの楽しさや喜びを見出すとともに、豊かなかかわり方に考えてみる。
- 運動の行い方を理解し、自己の能力に応じた課題を見付ける。
- 課題の解決に向けて、習得した知識を活用して運動の行い方を工夫し、運動に取り組む。
- ICTの活用等により、課題の到達度を確認し、必要な知識を収集するとともに実践する。
- 自己やチームの能力に応じた運動の楽しみ方を見付ける。
- 知識と技能を関連付けて学習することにより、その重要性を認識し、理解を深める。

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げる学びの過程の実現

- 運動についての課題と、その解決方法を仲間と共有する。
- 課題の解決に向けて、仲間の感情に配慮し、助け合ったり教え合ったりしながら運動に取り組む。
- 仲間と認め合い、励まし合いながら運動に取り組み、運動の楽しさや喜びを味わう。
- 言語活動の充実やICTの活用等を通して、仲間の学びを理解するとともに、運動についての自己の課題の解決に生かす。

深い学び

対話的な学び

主体的な学び

見通しをもつて粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる学びの過程の実現

- 運動の楽しさに気付き、自ら進んで運動に取り組む。
- 自己の目標をもち、目標の達成に向けた課題の解決に向け、意欲的に取り組む。
- 学習の見通しをもつとともに、自己の課題の解決に向けた粘り強く運動に取り組む。
- ICTの活用等により、学習を取り返り、課題の修正をしたり新たな課題を設定したりする。
- 公正、協力、責任、参画、健康・安全の大切さや意義を理解し、運動の楽しさや喜びを味わう。

体育科・保健体育科におけるアクティブ・ラーニングのイメージについて（保健）

基本的な考え方

- ・特定の型や、方式化された授業の方法や技術ではなく、授業改善の考え方として捉える。
- ・子供の学びへの積極的関与と深い理解を促すような指導や学習環境を設定することにより、子供たちの自信を育み、必要な資質・能力を身に付けていくことができる。
- ・具体的な学習プロセスは限りなく存在し得るものであり、教員一人一人が、子供たちの発達の段階や発達の特性、子供の学習スタイルの多様性や教育的ニーズと学習の場面等に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫して実践できるようになることが重要。

深い学び

習得・活用・探究という学習プロセスの中で、課題発見・解決を念頭に置いた学びの過程の実現

- ・健康に関する身近な生活やそれを取り巻く社会環境の状況から、健康課題に気付く。
- ・ICTを活用し、健康に関する情報を収集、批判的に吟味し、健康課題の解決に役立つ情報を選択する。
- ・選択した健康情報や習得した知識や技能を活用して、疾病等のリスクを減らしたり、生活の質を高めたりするなど健康課題の解決方法を考える。
- ・健康課題の解決方法を自他の間で比較したり、生活と関連付けたり、適切な意思決定・行動選択に役立てる。

対話的な学び

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げる学びの過程の実現

- ・健康課題や健康情報を仲間と共有する。
- ・健康課題の解決に向けたり相談したりしながら多様な解決方法を考える。
- ・健康課題に関する意見や提案を相互に理解し、相手の立場を考えて表現し、伝え合う。
- ・健康課題に関する話し合いを通して、仲間の学びや取組に対するよさを認め、自他の健康の保持増進や回復に生かす。

主体的な学び

見通しをもつて粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる学びの過程の実現

- ・自他の健康や社会の健康課題に関心をもち、健康課題の解決に向け意欲的に取り組む。
- ・学習の見通しをもつとともに、健康の大切さに気付き、健康課題の解決に向けて粘り強く取り組む。
- ・学習を振り返り、習得された健康に関する知識・技能や思考・判断した成果を確認する。

体育・保健体育の特質に根ざした見方・考え方のイメージ（案）

体育
保健体育

- 運動やスポーツについて、その意義や特性に着目しつつ、楽しさや喜びを見出すとともに体力を高め、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全といつた等の視点を踏まえながら、「する・みる・みる・みる・みる・みる」との多様なかかわり方について考察すること
- 健康や安全の視点から情報を捉え、健康の保持増進と回復を目指して疾病等のリスクを減らしたり、生活の質を高めたりすることについて考察すること

生活・総合的な学習の時間ワーキンググループにおける検討事項

【生活科について】

1. 「生活科」を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・育成すべき資質・能力の可視化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）
 - ・生活科の内容の構成要素等（学年目標を構成する項目、内容構成の基本的な視点と具体的な視点、内容の構成要素と階層性、学習対象等）と、論点整理で示された育成すべき資質・能力の三つの柱との関係について
 - ・中学年以降の各教科等とのつながりについて
 - ・低学年における他教科等との関連について
2. 幼児教育との円滑な接続を図るスタートカリキュラムの中核となる教科としての位置付けについて
 - ・カリキュラム・マネジメントの視点からスタートカリキュラムの在り方について
 - ・幼児教育との接続及び、他教科等との連携の在り方について
 - ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と生活科において育成する資質・能力との関連性について

【総合的な学習の時間について】

1. 「総合的な学習の時間」を通じて育成すべき資質・能力の明確化について
 - ・各教科等の学習を踏まえた上で、総合的な学習の時間を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・発達の段階に応じた育成すべき資質・能力について
 - ・発達の段階に応じて身に付けるべき学び方やものの考え方の明確化について
2. 教育課程全体における「総合的な学習の時間」の意義について
 - ・各教科における学習で身に付けた資質・能力を相互に関連付けた教科横断的な学習を行う時間としての意義
 - ・各教科等単独では取り組むことの難しい現代的な課題の学習を行う時間としての意義
 - ・高等学校教育において、より探究的な学習活動を重視する視点からの「総合的な学習の時間」の在り方について

教科等の特質に応じた「見方や考え方」や資質・能力を育むとともに、
教科横断的にこれらを総合・統合していく学び

生活科を中心としたスタートカリキュラムの中で、
合科的・関連的な指導も含め、子供の生活の流れの中で、幼児期の終わりまでに育つた姿が發揮できるような工夫を行なながら、短時間学習なども含めた工夫を行うことにより、
幼児期に総合的に育まれた「見方や考え方」や資質・能力を、
徐々に各教科等の特質に応じた学びにつなげていく時期

幼児期の終わりまでに育つてほしい姿を手がかりとしながら、
幼児の得意などころや苦手などころを見極め、それらに応じた関わりをしたり、
より自立的・協同的な活動を促したりするなど、意図的・計画的な環境の構成
に基づいた総合的な指導の中で、バランスよく「見方や考え方」や資質・能力を育む時期

遊びや生活の中で、幼児期の特性に応じた
「見方や考え方」や資質・能力を育む学び



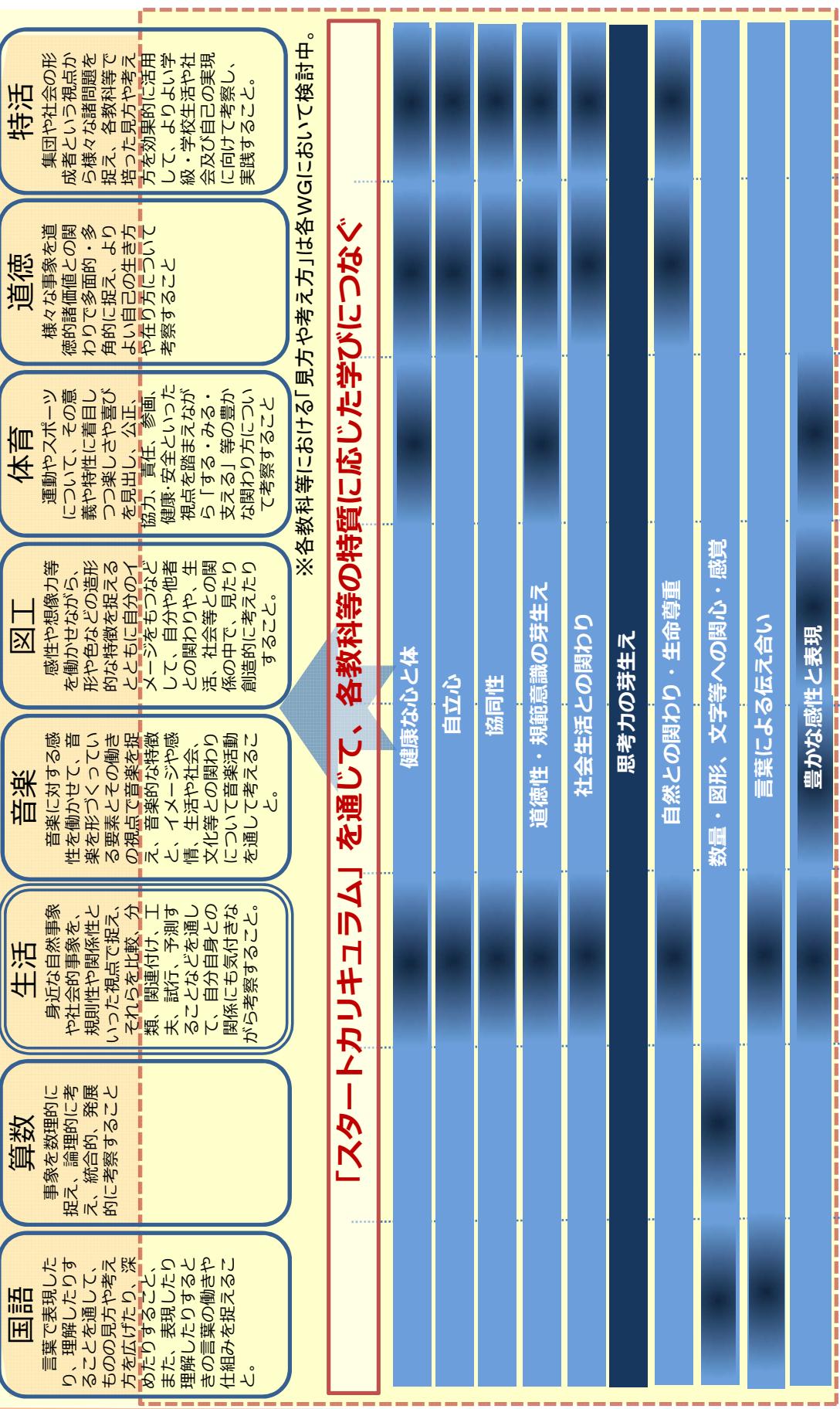
接続期

小学校教育

幼児教育

スタートカリキュラムのイメージ(案)

「見方や考え方」や資質・能力をさらに成長させる
中学年以降の学びへ



※各教科等の「見方・考え方」を踏まえて、関係性を示したものである。
また、「幼児期の終わりまでに育つてほしい姿」の項目の濃淡は、小学校教育との関連が分かるように示したものではない。

資質・能力の三つのはじに沿った 生活科において育成すべき資質・能力の整理（要素）

平成28年3月24日会
議課程部総合的な学習の時間
ワークシングループ資料4

視点	学習対象	個別の知識や技能の基礎 (生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何ができるようになるのか)	思考力・判断力・表現力等の基礎 (生活の中で、気付いたこと、できるようになったことを使って、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)	身近な人々や地域に 関わり、集団や社会の一 員として適切に行動しよう とする態度	身体を通して関わり、対象に直 接働きかける力	比較したり、分類したり、関連 付けたり、視点を変えたりして対 象を捉える力	遠いに気付いたり、よさを生か したりして他者と関わり合う	試したり、見立てたり、予測し たり、見通しを持ったりして創り出 す力	具体的な活動や体験を通して獲得 する、自分自身に関する個別的な資質 （自己のよさや可能性を生かして、意欲と自信をもつて生活しようとする態度）
【自分と人や社会とのかかわり】	健康で安全な生活、身近な人々との接し方、地域への愛着、公共の意識とマナー、生産と消費、情報と交流（ア～カ）	■具体的な活動や体験を通して獲得する、社会事象に関する個別的な気付き	■具体的な活動や体験を通して形成する、社会事象に関する関係的な気付き	■身体を通して関わり、対象に直接働きかける力	■比較したり、分類したり、関連付けたり、視点を変えたりして対象を捉える力	■遠いに気付いたり、よさを生かしたりして他者と関わり合う	■試したり、見立てたり、予測したり、見通しを持ったりして創り出す力	■伝えたり、交流したり、振り返ったりして表現する力	■自分のよさや可能性を生かして、意欲と自信をもつて生活しようとする態度
【自分と自然とのかかわり】	身近な自然との触れ合い、時間と季節、遊びの工夫（キ～ケ）	■具体的な活動や体験を通して獲得する、自然事象に関する個別的な気付き	■具体的な活動や体験を通して形成する、自然事象に関する関係的な気付き	■身体を通して関わり、対象に直接働きかける力	■比較したり、分類したり、関連付けたり、視点を変えたりして対象を捉える力	■遠いに気付いたり、よさを生かしたりして他者と関わり合う	■試したり、見立てたり、予測したり、見通しを持ったりして創り出す力	■伝えたり、交流したり、振り返ったりして表現する力	■自分のよさや可能性を生かして、意欲と自信をもつて生活しようとする態度
【自分自身】	成長への喜び、基本的な生活習慣や生活技能（コ、サ）	■具体的な活動や体験を通して獲得する、自分自身に関する個別的な気付き	■具体的な活動や体験を通して形成する、自分自身に関する関係的な気付き	■身体を通して関わり、対象に直接働きかける力	■比較したり、分類したり、関連付けたり、視点を変えたりして対象を捉える力	■遠いに気付いたり、よさを生かしたりして他者と関わり合う	■試したり、見立てたり、予測したり、見通しを持ったりして創り出す力	■伝えたり、交流したり、振り返ったりして表現する力	■自分のよさや可能性を生かして、意欲と自信をもつて生活しようとする態度

生活科の学びのプロセスと育成すべき資質・能力の関係(案)

平成28年3月24日会
教科・総合的な学習の時間
ワークシングル一
資料3

思いや願いを持つ

活動や体験をする

感じる・考える

表現する・行為する

* 実際の学習活動は一體的に行われ、体験と表現が繰り返される

- 対象に関心を持つ
- 身体全体で対象と関わる
- 自ら対象に働きかける

- 比較したり、分類したり、関連付けたり、視点を変えたりして対象を捉える
- 違いに気付いたり、よさを生かしたりして他者と関わり合う
- 試したり、見立てたり、予測したり、見通しを持ったりして創り出す

- 伝えたり、交流したり、振り返ったりして表現する
- 生活に生かしたり、生活を豊かにしたりする

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力・人間性等

個別の知識・技能

探究心 他者尊重 地域への愛着 適切な関わり 公共 安全 (主に人や社会との関わり)

好奇心 自然との触れ合い 感性 生命尊重 創造 (主に自然との関わり)

意欲 自信 成長 自分らしさ 感謝 (主に自分自身)

人、社会、自然に対する個別的な気付き
(例:学校生活をしている人々がいること、季節によって生活の様子が変わることなど)

人、社会・自然に対する関係的な気付き
(例:空間の中でつながり関わっていること、つまり一定の変化があることなど)

自分自身への気付き
(例:自分自身が成長したこと、役割が増えたことなど)

具体的な活動や体験を通して身に付ける習慣や技能(例:生活のリズム・病気の予防・ルール・マナー、道具を使って物を作る・動植物の世話をできるなど)

生活科の学びのプロセスと育成すべき資質・能力の関係(案)

思いや願いを持つ

感じる・考える

表現する・行為する

* 実際の学習活動は一體的に行われ、体験と表現が繰り返される



うわー。きれいな花。育ててみたい。



葉っぱがまだん
だん大きくな
つてきだぞ。
蔓も伸びてき
た。毛も生え
ているぞ。



アサガオは、
どんな気持ち
かな。私のお
世話のことを
どう思ってい
るのかな。



水をしつかりあげて、
日の当たるところに
置いておくと、大きく
育ちます。毎日のお
世話が大切です。私
は、忘れずにお世話
をおしゃべることが
できました。アサガ
オと一緒に私も大き
くなりました。



かっこいいロケット
だなあ。飛ばして
みたいな。作りた
いな。



この輪ゴム
はどうなつ
いるのかな。
高く飛ばすには
どうすれば
いいのかな。



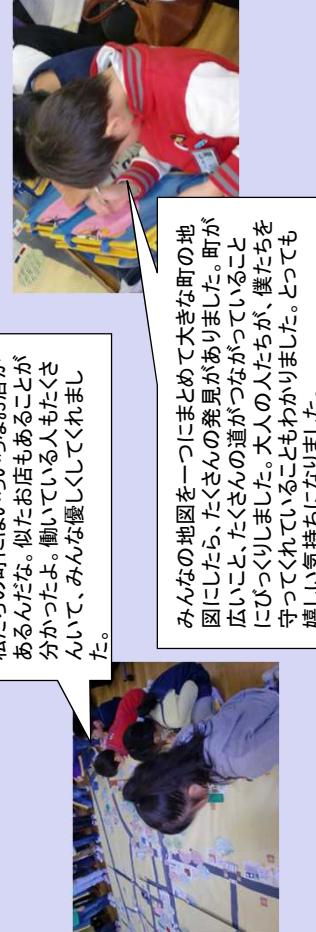
なるほど、わか
ったぞ。輪ゴム
の巻き方や伸ば
し方でロケットの
飛ぶ高さが違う
みたいだぞ。別
の方法でも比べ
てみよう。



輪ゴムをたくさん巻くとロケットは遠くに飛びました。
輪ゴムを長く伸ばしたときも遠くに飛びました。きま
りがあるみたいで。がんばって作つたら、すごい
ロケットになりました。楽しかったので、また、やって
みたいです。



町探検、楽
しそうだな。
早く行きたい
な。



私たちの町にはいろいろなお店が
あるんだな。似たお店もあることが
分かったよ。働いている人もたくさん
いて、みんな優しくしてくれました。

みんなの地図を一つにまとめた大きな町の地
図にしたら、たくさんのが見がありました。町が
広いこと、たさんの道がつながっていること
にびっくりしました。大人の人たちが、僕たちを
守ってくれていることもわかりました。とっても
嬉しい気持ちになりました。

資質・能力の三つの柱において育成すべき資質・能力の整理(素案)

総合的な学習の時間において育成すべき資質・能力の整理

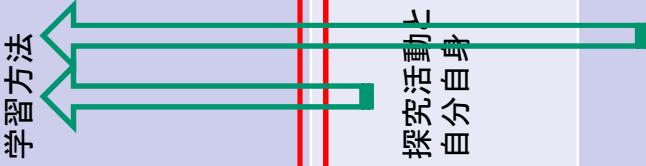
個別の知識や技能 (何を知っているか、何かできるか)		思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 (どのように社会・世界と関わるもの、どのように社会・世界と関わりよい人生を送るか)
○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識(及び概念)	○ 探究的な学習を通して身に付ける課題を解決する力 ・課題設定 ・情報収集 ・整理分析 ・まとめ表現 など	○ 主体的な深究活動の経験の蓄積を信念や自信、自己肯定感につなげ、さらに高次の課題に取り組もうとする態度を育てる。 ○ 協同的な深究活動の経験の蓄積を自己有用感や社会貢献の意識へとつなげ、よりよい社会の実現に努めようとする態度を育てる。	○ 主体的な深究活動の経験を自己有用感や社会貢献の意識へとつなげ、よりよい社会の実現に努めようとする態度を育てる。
○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能	○ 学ぶことの意義や価値の理解		
中学校	○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識(及び概念) ○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能	○ 探究的な学習を通して身に付ける課題を解決する力 ・課題設定 ・情報収集 ・整理分析 ・まとめ表現 など	○ 主体的な深究活動の経験を自己の成長と結び付け、次の課題へ積極的に取り組もうとする態度を育てる。 ○ 協同的な深究活動の経験を社会の形成者としての自覚へとつなげ、積極的に社会参画しようとする態度を育てる。
小学校	○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識(及び概念) ○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能	○ 探究的な学習を通して身に付ける課題を解決する力 ・課題設定 ・情報収集 ・整理分析 ・まとめ表現 など	○ 主体的な深究活動の経験を自信につなげ、次の課題へ進んで取り組もうとする態度を育てる。 ○ 協同的な深究活動の経験を実社会・実生活への興味・関心へとつなげ、進んで地域の活動に参加しようとする態度を育てる。

教育課程全体におけるアクティブラーニングの観点での学習活動を支える

探究のプロセスと育成すべき資質・能力の関係(案)

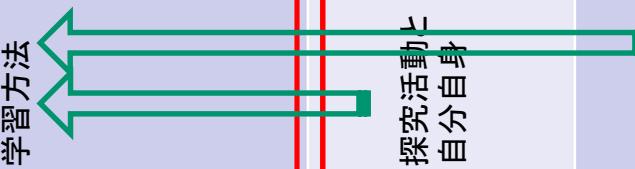
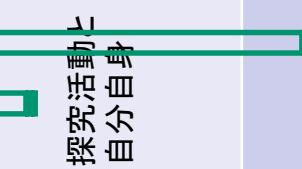
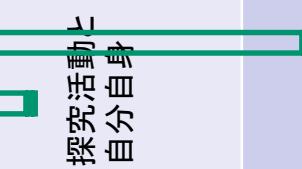
平成28年3月8日会議
生活・総合的な学習の時間
ワークシングループ資料5

■ 小学校

課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
<p>■ 問題状況の中から課題を発見し設定する ■ 解決の方法や手順を考え、見通しをもつて計画を立てる</p> <p>学習方法</p> 	<p>■ 手段を選択し、情報を収集する ■ 必要な情報を収集し分析する</p> <p>■ 問題状況における事実や関係を把握し理解する ■ 多様な情報の中にある特徴を見付ける</p> <p>■ 課題解決を目指して、象徴を比較したり、関連付けたりして考える</p>	<p>○課題の解決に向けて探究活動に主体的に取り組もうとする（主体性）</p> <p>○自分らしさを發揮して探究活動に向き合い、課題解決に向け取り組もうとする（自己理解）</p> <p>○探究的な課題解決の経験を自信につなげ、次の課題へ進んで取り組もうとする（内面化）</p>	<p>○課題の解決に向けて探究活動に協同的に取り組もうとする（協同性）</p> <p>○異なる意見や他者の考えを受け入れながら探究活動に向き合い、目標の達成に向け取り組もうとする（他者理解）</p> <p>○探究的な課題解決が実社会・実生活への興味・関心へつながり、進んで地域の活動に参加しようとする（社会参画、社会貢献）</p>
<p>探究活動上 自分自身</p>	<p>探究活動と 他者や社会</p>	<p>社会の課題に関する事実的知識(※)の獲得</p> <p>※総合的な学習の時間で扱う内容は各学校において定めることとなっているため、知識の具体は各学校において異なる。</p>	<p>概念的知識(※)の形成</p> <p>課題設定のスキル 情報収集のスキル 思考のスキル 表現のスキル</p> <p>(比較・分類・関連付け)</p>
<p>知 識</p>	<p>技 能</p>	<p>■ 知識とは、学校種が上がるほど高度化・構造化する ■ 技能とは、思考スキルを中心とした、学校種が上がるほど自覚化・脱文脈化する</p>	

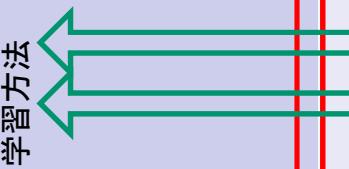
探究のプロセスと育成すべき資質・能力の関係(案)

■中学校

課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
<p>■複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する ■仮説立て、検証方法を考え、計画を立案する</p> <p>学習方法</p> 	<p>■複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考え方を収集し、多角的に分析する</p> <p>■必要な情報を収集し、多角的に分析する</p> <p>■視点を定めて多様な情報を分析する</p> <p>■課題解決を目指して、事象を比較したり、因果関係を推測したりして考える</p>	<p>○課題に誠実に向き合い、課題の解決に向け探求活動に主体的に取り組もうとする（主体性）</p> <p>○自分のよさを生かしながら探求活動に向き合い、責任をもつて計画的に取り組もうとする（自己理解）</p> <p>○探究的な課題解決の経験を自己の成長と結び付けて考えることができ、次の課題へ積極的に取り組もうとする（内面化）</p>	<p>○互いの特徴を生かすなど、課題の解決に向け探求活動に協同的に取り組もうとする（協同性）</p> <p>○異なる意見や他者の考えを受け入れながら探求活動に向き合い、互いを理解しようとするとする（他者理解）</p> <p>○探究的な課題解決が社会の形成者としての自覚へとつながり、積極的に社会活動へ参加しようとする（社会参画、社会貢献）</p>
<p>探究活動と自分自身</p> 	<p>探究活動と他人や社会</p> 	<p>実社会の課題に関する事実的知識(※)の獲得</p> <p>※総合的な学習の時間で扱う内容は各学校において定めることとなるため、知識の具体は各学校において異なる。</p>	<p>概念的知識(※)の形成</p> <p>課題設定のスキル</p> <p>情報収集のスキル</p> <p>思考のスキル</p> <p>表現のスキル</p> <p>(比較・分類・関連付け・多面的)</p>

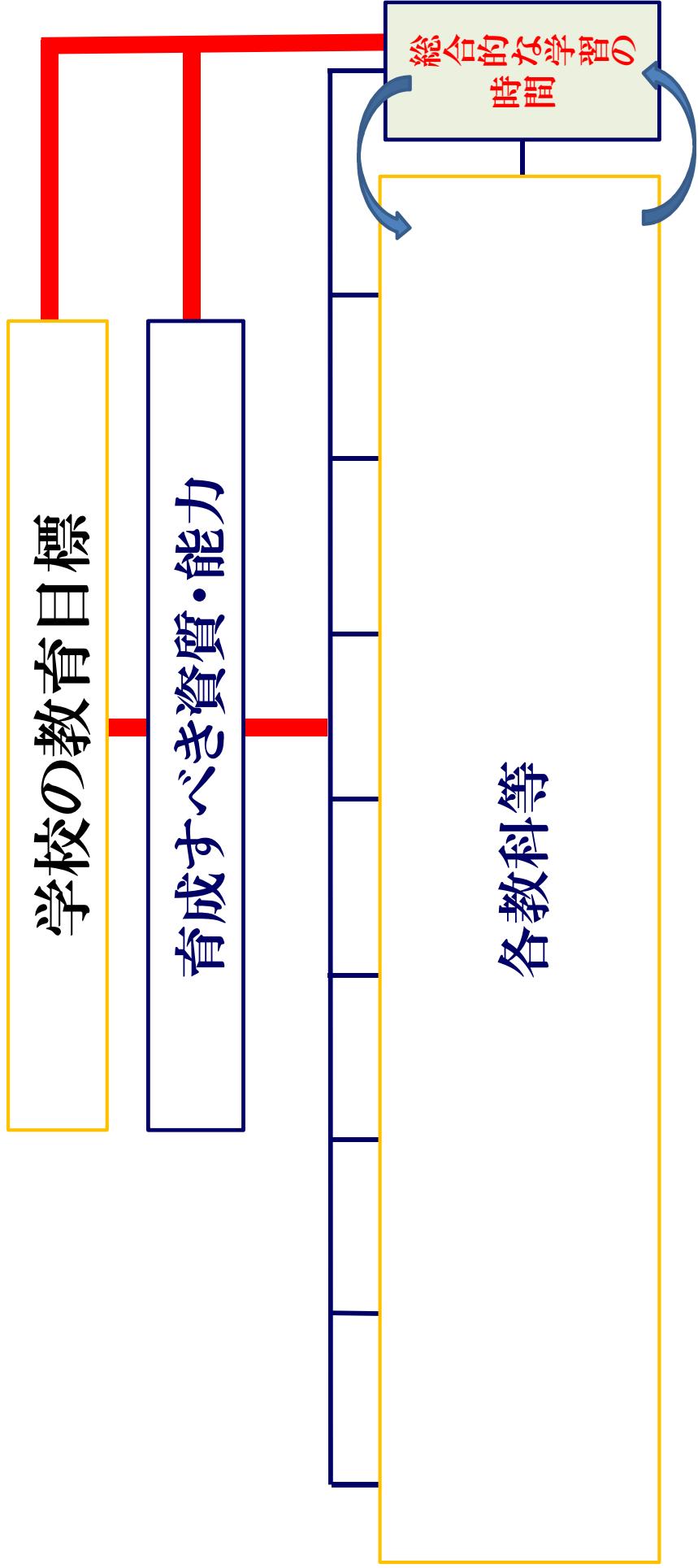
探究のプロセスと育成すべき資質・能力の関係(案)

■高等学校

課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
<p>■複雑な社会状況を踏まえて 課題を設定する ■仮説立て、それに適合した 検証方法を明示した計画を立 案する</p> <p>学習方法 </p>	<p>■複雑な問題状況における事 実や関係を構造的に把握し、 自分の考えを形成する ■視点を定めて多様な情報 から帰納的、演繹的に考察 する</p> <p>■迅速かつ効果的に収集し、多 角的、実際的に分析する</p> <p>■事実や事実間の関係を比 較したり、複数の因果関係を 推理したりして考える</p>	<p>○課題に真摯に向き合い、より適切な課題の解決に向けた探究活動に主体的に取り組もうとする（主体性）</p> <p>○自分の特徴を生かし当事者意識と責任感をもつて探究活動に向き合い、計画的に着実に取り組もうとする（自己理解）</p> <p>○探究的な課題解決の経験の蓄積を課題解決への信念や自信、自己肯定へつなげ、更に高次の課題に取り組もうとする（内面化）</p>	<p>○互いを認め特徴を生かし合うなど、課題の解決に向けた探究活動に協同的に取り組もうとする（協同性）</p> <p>○異なる意見や他の者の考えを受け入れながら探究活動に向き合い、互いを尊重し理解しようとする（他者理解）</p> <p>○探究的な課題解決の経験の蓄積が、自己有用感や実社会・実生活に貢献しようとする態度へつながり、社会の形成者としてよ りよい社会の実現に努めようとする（社会参画、社会貢献）</p>
<p>探究活動と 自分自身</p> <p>探究活動と 他者や社会</p>			<p>概念的知識^(※)の形成 学ぶことの意義や価値の理解</p> <p>○総合的な学習の時間で扱う内容は各学校において定めることとなるため、知識の具体は各学校において異なる。</p> <p>○比較・分類、関連付け・多面的・構造的)</p> <p>●知識 ●技能</p> <p>実社会の課題に関する事実的知識^(※)の獲得 課題設定のスキル 情報収集のスキル 思考のスキル 表現のスキル</p>

カリキュラム・マネジメントのイメージ

カリキュラム・マネジメントの実現



※ 総合的な学習の時間の目標は、各学校が育てたいと願う児童生徒像や育てようとする資質や能力及び態度などを表現したものになるため、学校の教育目標と直接的につながる。

【カリキュラム・マネジメントの三つの側面】(教育課程企画特別部会論点整理より)

- ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ② 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- ③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。